

飲食業

回答企業19企業

概況



～業況判断D I 値 全項目で改善～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比15.8ポイント上昇の▲36.8と改善し、前回調査予想値(▲31.6)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で36.8ポイント上昇の10.5、売上数量が52.6ポイント上昇の10.5、利益でも21.0ポイント上昇の▲15.8と全項目で改善となった。

新型コロナウイルス感染症の影響緩和で、小宴会・個人客はコロナ禍前に戻っている先もあり、業況は回復基調にある。仕入価格・光熱費等の上昇に伴う価格転嫁の実施状況により収益の格差が生じている。

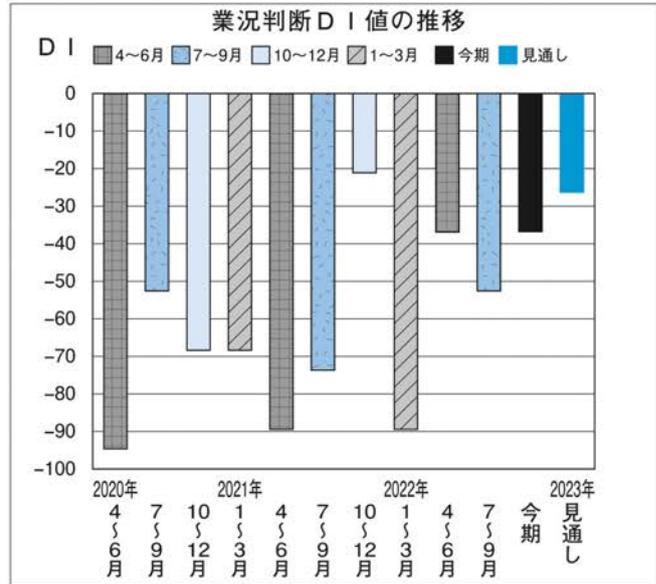
来期の見通し



～総合的業況判断では改善の見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比10.5ポイント上昇の▲26.3と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で21.0ポイント低下の▲10.5、売上数量が26.3ポイント低下の▲15.8、利益でも26.3ポイント低下の▲42.1と全項目で悪化の見込みとなった。

販売価格の値上げを検討しているが、仕入価格等の上昇に追いつかないうえ、値上げに伴う落ち込みを懸念している。新型コロナウイルス感染症の影響緩和等、総合的業況判断では改善の見込みとなった。



不動産業

回答企業9企業

概況



～業況判断D I 値 大幅悪化で推移～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比33.3ポイント低下の▲33.3と大幅悪化し、前回調査予想値(▲11.1)を下回る結果となった。

項目別では、売上・受注で横ばいで0.0、売上数量が11.1ポイント低下の▲11.1、利益では22.2ポイント低下の▲11.1と売上・受注は横ばい、売上数量、利益が悪化となった。

原材料高騰により不動産価格も上昇し、売上の動きは鈍く利幅も縮小している。大幅悪化で推移した。

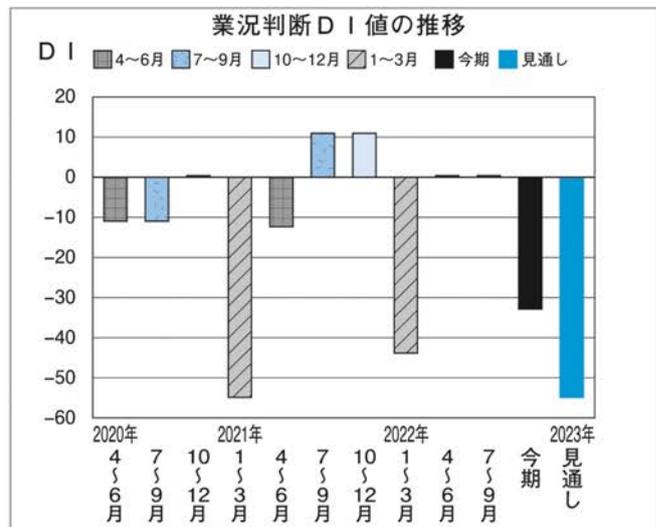
来期の見通し



～総合的業況 悪化の見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比22.3ポイント低下の▲55.6と悪化の見通しである。項目別では売上・受注で33.3ポイント低下の▲33.3、売上数量が22.2ポイント低下の▲33.3、利益でも11.1ポイント低下で▲22.2と全項目で悪化の見込みとなった。

来期も、不動産の売上の動きは鈍い状態が続くと予想される。物価上昇による経費の増加が継続し収益減少の見通しで、総合的業況は悪化で推移すると見込んでいる。



調査要領

- 調査時期 2022年12月下旬
- 調査地域 当金庫営業区域7市町村(弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、大鰐町、藤崎町、田舎館村)
- 調査方法 上記地域内291社から当金庫営業店の調査員による聞き取り調査。
- 分析方法 各質問事項で、変化なしとした回答部分を除いて、「増加(上昇)」「やや増加(やや上昇)」したとする回答と、「減少(下降)」「やや減少(やや下降)」したとする回答の構成比との差(判断D.I.)を中心に分析を行った。